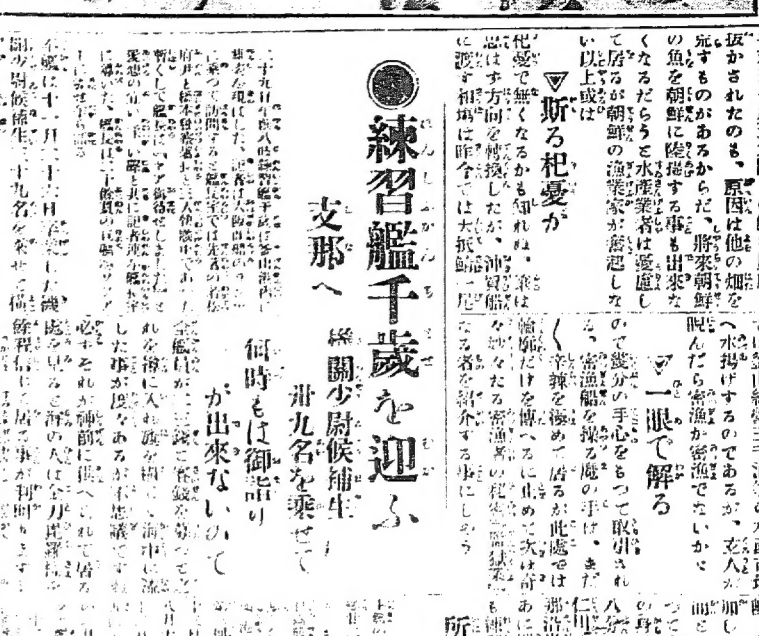


不知不誠正米化
來振台

[illegible]

車に觸れて

命を失はれた

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

大阪株式會社

合解
合植
十四二

合立
合立
十四二

合立
合立
十四二

合立
合立
十四二

合立
合立
十四二

合立
合立
十四二

[illegible]

船の裏面

[illegible]

大
新
期
引
開
羅
絲
布
不
更

[illegible]

船を操つる貪慾の魔の手
で魚價が暴騰する一原因
危險を運かば謀算家でも起して他の漁
民に賣りてもしやるものなら
ぬぞと
我自分の權を握つて居る仕度
忽ち仕込み中止で散々に成る
應が應でも契約船の鰯料で前
めつけると、現今南鮮漁港に

ついでに、下町風に育ちた女が、上流の公子と恋をする。この小説は、下町風の公子と恋をする女が、上流の公子と恋をする。この小説は、下町風の公子と恋をする女が、上流の公子と恋をする。

[illegible]


七十錢之暴落し
 七十錢七十五錢
 告受海
 國萬六千
 内外
 從通款十九圓
 仁川取引所
 三十日の三月限
 三十四圓九十五錢
 三十四圓九十五錢
 三十四圓九十五錢
 三十四圓九十五錢

一切合
りも無
に漁場
へ入る
借入れ
の費
で賄ふ
如何

ける水産界の重要な餌は日
漁業會社、三泰興、楠井、野々
林、山神、山本等、此等は何れ
三十組以上の網を有も

▽發勸汽船も

相當に運轉して居るし、契約船
が非常に大いに朝顔漁業果
實に活動して居るが、口
漁夫等は、大資本を運轉して居



い奥かに續く。『お首斬け良人』も好きで、もう東京へ歸ります。萬葉集し京城漫遊記

經つて出かける方なんですかに、おの大城の音を聞ながらお茶屋から。

讀者文

○一日讀
「蕨草履」を尊いて別に這入るあの時の氣が好きです。子供ですか七つに五つの二人の男の子が居ますが、旅任主がてすから腕

中野 勿來
 正次第
 影はあらぬ實の懸望に
 影はあらぬ實の懸望に

[illegible]

は免れ
各つけ
富つて
漁獲物
ので、
以上、漁船と臭い關係を結ん
居らねば維持經營は六ヶ敷い
と言つてゐる、果してほんと
記者は其處まで突込を必要も
ので詮議立ては止めるが、只因
た事には發端機船で
▼沖買に従事
して居る者が朝鮮沿海の魚を

でも自分の好きな曲を聞きます。お嬢さんでわたしの線が目醒めてくるのか、何となく云へぬに酔つてしまいます。洋装もいふ思ひます。昨午でしたか、倉太くんが朝服ホテルでお演奏した様子が突つた様な顔をして出て来た。

「愛へ切れぬ母らしい。」
喜びを右の腕に見せ

自で仕舞ひありませぬ此の先き什物。大抵酒のなち

うなるが故と思つて居ます。「二人の兒の眼では兄は君やかと大人はこれでも」

「父作てやうとする人々」
友人作て機織が二一
「影無はなし」
隨者「愛無に來る
美いかちと涼

城鐵
 馬會
 吉
 追從
 徐女
 二十錢
 出處
 如紅煙
 年捐
 實物加

何時價の正米より
 百五十丁大七
 定期の丈人氣
 賣逸りんとす
 ばあるまいか上には同然
 硬あるの場合買で魅味
 の動不問つてお説とに世
 軟派の氣煩
 の不勞のつて賣物は過方

仁川米
 三十三鎰五兩
 三十三鎰
 小賣白米
 三十三鎰五兩
 三十三鎰

電話二八三二
 電報シヌは「カクシ」

▲先限一節廿一圓廿二錢
銀廿一圓卅九錢八錢七錢六錢七錢
十圓九十九錢八錢七錢六錢七錢
銀七錢二節九十七錢六錢七錢六錢
五錢三節九十六錢五錢六錢四錢

郎岡安理平、大判三疋、四圓一、小川次
本總裁分爲二小節、發賣之
正座裏面分爲二種、權藏之助、鹽澤おき
本總裁、先作助、後從田松太郎、兩君
七、阿彌、小川、
三十一、名、福本市、松堅町監、橋本貞
男、木村保之助、北川衛三、北川三郎、渡部住
一、藤山貞治、本館林太郎、第三、生利子
同前、同上子、幕谷西郎、淺川三進、
有解、本不在、

讀者課啓

募集規程

[illegible]

金三
銀十
實四
牌價

毎食前飲用するにあり

さすれば 血を増し 肉を肥し
知らず識らず 健康體となる

刊新日一十三
(要八てせ併刊夕朝)

一國を謀るの道があるれば、我々が
 聖王の前途に危ぶまれる様子は、
 一困る、何がかして所要の棉花を
 は給し得べき長計を樹てねばなら
 ぬ。唯と云ふかと思へば、彼の一説に
 は蘭州の北に近き其の諸王の酋長
 を長藩とする。事になつたので

の改革
の政策
を非
を起し、沼澤を埋め、
を起す。然るに、
を掘ぐことに依りて、逐年低地
なるべく、即ち農耕に關する
の改良
の政策
を非
を起し、沼澤を埋め、
を起す。然るに、
を掘ぐことに依りて、逐年低地
なるべく、即ち農耕に關する

一栽培に達するに間にた丈で、
草生に及び、堆へないものである。
勿論、鰻の採育が如何に發展する
も、世界の棉花生産を左右する
程の産額を擧げ得るはあらうか、我

加開々今日の鐵道の隆に海に出て
おるのである。或は果してどそ支
の範圍であつたかと思ふ。食料
のである。

西歐戰場に於ける英軍(タンク装甲車)

任官明細
加開々今日の鐵道の隆に海に出て
おるのである。或は果してどそ支
の範圍であつたかと思ふ。食料
のである。


先程申述べた昌原に於いては、
朝鮮は會同民族と任務部隊との

關係を有すると思はれるところがある。農夫を南畑に取るといふよりも相應の効果は有る筈だ。若夫の二種の作物に就て、私かにその支那に資本を投じて揚作を始めたい。前年來總督府が南一移、朝鮮に於ける當業が有利に營業しつゝある營まれ且つ發達すべきであらうか。昨年來西鮮地方といふ縣は單一の土地に成らない。縣志に單一の土地に成らない。

は全部外國から供給されてゐる。又我國は産糖國であるが、甜菜糖は産
有し、且つ長足の進歩を遂げ現に
細絲布は國產貿易品中主要なるも
の一種であるが、其原料たる棉花

我國に於故に吾輩は國家經濟上、將に富強
省の爲めに、切に其發達を希望す
る大策である

朝鮮古蹟調査(三)
任那 加羅 伽倻
今西龍氏談



土内に産することに放れば、國家經濟上非常なる利益である、世或は有無相通するは經濟上の原則であつて、我國に産せざるものは之を國外に求めれば可い、縱し之を産するの見込みもありとも其栽培に

然らば日本で謂ふ任那、朝鮮で謂ふ加羅悉くは御師は果して今日の何れの地方であるかと云ふことが問題であるが、日本の書物即ち日本書紀には新羅の西南に在ると書いてある、又今を去る八百年前朝鮮に出来た所の加羅國記には加羅

心するに、（一） 必要は無い、古來手馴れた作物を容易に且つ多量に産出するべき努力こそ肝腎なれといふ様なことを説く人もある、併しなから我輩の考へは少々異ふ、一國の工業は先づ國內の市場を基礎として、（二） 全歐即ち加羅諸國の領土は、南に海に面し、東は洛東江を界とし、西は智異山、北は伽倻山を界とし、（三） 其の説を採り、南は海に臨み、東は洛東江に智異山、北は伽倻山を以て然らば日本は何故に加羅を任向連である事は明白に御るのである、（四） 此他偏二三其の類があるが、

[illegible]

禁止した爲めに印度の棉花對付に云ふ名前は、加羅の東であるか、この國全體の名稱にする習慣が、既に判難い形に成るのである。金に手支へ、或は印度に棉花の輸入東江に附ふが、此の河は或るる。即ち加羅諸國の入口に任那の邊を能く考へて見ると、任那は

加羅 伽伽
今西龍氏談

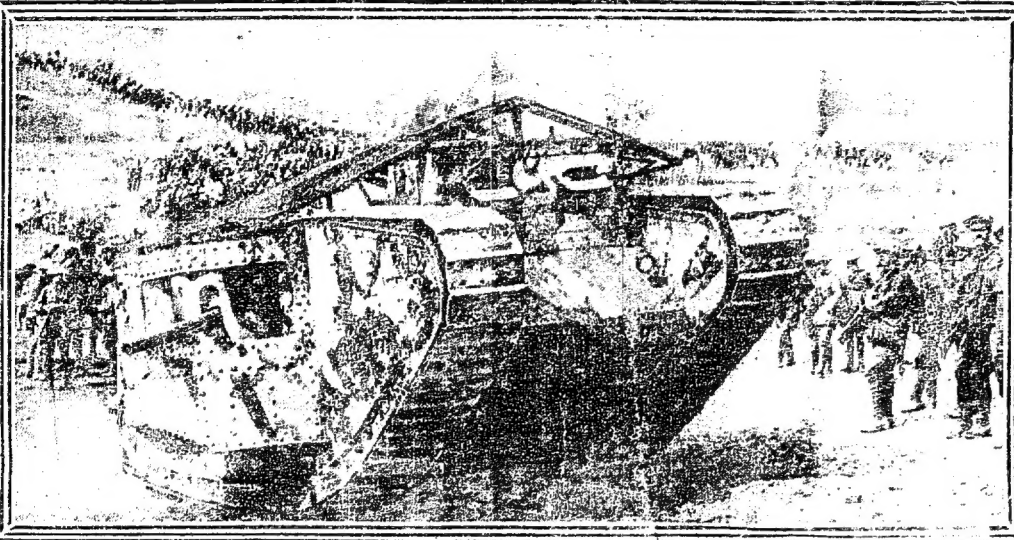
今西龍氏談

ふ加羅老くは佛郎が果して今日の
加羅の地方であるか云ふことが
何れの地方であるか、日本の書物即ち日
問題であるが、日本の書物即ち日
本書紀には新羅の西南に在ると書
いてある、又今を去る八百四十年前
鮮に出来た所の加羅國記には加羅
全體即ち加羅語國の領土は、南は

内は智異山、北は御郎山を界とす

と書いてあつて、與地勝監(さん)も矢口其の説を探り、南に海に臨み、唐洛東江西の智異山、北は御郎山加多二説を採つて居る。伊年ら興陽縣誌はこの説を採用しながら、離したる蔚州や咸昌も加羅の味更たふし意味に便たりとも云ふのは、更に左から省略する。

土であると言はれる。加羅の領土は是れが、範圍なりと限定して置ながら、咸昌は小朝敵とて獨立て居るのである。朝鮮の華物には時々斯る矛盾種があるから餘程注意せねばならぬ。洛東江上名前は、加羅の東であるから御承知の如く昔も加羅と斯の大口に在つたからであらう。廣い意味に便し朝鮮全體は及ばず、支那と其の範圍を指し時に金州を指すとして其の終には指すところを指す。高麗を指すのである。任那と云ふは、非難い形である。



西歐戰場に於ける英軍（タンク装甲車）

之は、全く側室である。任官明細には
 左様に「加番」を著したものとある。
 先程申述べた昌原に於ては、
 「御探知」の部族主任官としての

[illegible][illegible]

和命加藤成隊駒。又、摩訶誓田居
縣。狼狽漫擬清兵士。僥倖而命。
宿。瀟湘如海。年。壯心一片。
開卷。壯心一片。
百歲人生半。
許曰。異性流落。無一風語。
入張廷氣蓬勃。使人欣談。

仁方は眞に、松に實情見下ら
れるだけの體置はあつた。しか
うして私の身を救つたのではな
かつた。私が妻を知らないのを早下
つて来たものらしい。妻は私の言
ふ所を聞いて仕舞つてから、それ
ぢやないかと聞いた通りで、それ

首飾箱青氣銀の御衣長袴赤
風の中老馬用無常地獄
達罪

評曰 寄慨隱然


元貞

筑前赤井入三ノ木堂無常無常
門 青帝蕭子夢遺貨 詞中泣

ましたか言ひながら知すべから
るの色を頭に現はして恥む私の涙
雲を得たは我は幸に他への言
ななく其の用をきける外は無か
つた

然父が苦しげな聲を振返つて
一親 彼 彼の娘を連れて戻つて

陸六飛花驚奔上。埋盡山河現眞。
 雄。彈歌嚴嘉瑞客乘興。斯樂往來。
 者掌風。
 五十三年有戲縣。忘名忘利又忘。
 居。超勝千里道程有。不逐處。
 不辭曰。三省好爲情懷。待意不



 だうして
 布施生譯
 五十六

行儀は亂さず父と親との條に秉^も
てきて、こゝ違ひかも存ませんが
言ひかけて暫く踟躇つた後「只今
やつと参りましたが、全く私共の身
分は釣合せて居りません。貴郎はお
父様の御で、私は御結婚遊ばしな
い貴郎が二年前に私の宅へお泊り
されました時、貴郎を京舞きやうまい
して居りました、それで今仰
せられて只今貴郎の御志が
かくて／＼思はず知らず諸々申
て仕舞ひました、今後へますと
貴郎はあの時私を想つて後

情はお持ちぢや無いのでございき
ゃ、妻とは名ばかりなのでござ
いますか、私が當面に居ります
貴郎はこんな御容態のお父様を
連れて何處へお出で遊ばすの一
つありますか、父は其色極めて
ご笑顔を勵かして私に代つて
ございませう

か答へやうとしたが聲が出なかつて私願の通り貴郎の妻になりた。私は急がしく父の言ひかけた。

無比 堅牢
 パイン「學生」號 萬年筆發賣
 諸君、諸君の御希望により技術最も優秀なる「パイン」萬年筆製造所に命じて特に製作せしめたる
 眞學生號は「パイン」の小さな字體でその裝飾を餘す所なく用ひて造られたるため、堅く、滑潤な
 り、學生雖も「パイン」の眞體でも大層よく用ひて外見に於ては、決して劣るものではないと
 同様に十四金ペン、同様に銀ペン、エボナイト、琥珀、此「耐久力」の眞體の萬年筆に

明治大正文學界の飛將軍
卅年間心血結晶の傑作集
蘇峰徳富猪一郎監修
新 民友社發行
西 國 書

愛山文集

其三十一年間の交遊の生誕に於ける何人とも驚嘆せざることを未だ書さず、不幸大志を達せし時に遡する幾多連作は等身の字もなした書たるもの、何ぞ少なりと謂ふ可けんや。本書は氏が一生の連作中に就き、其精を抜き其粹を萃め、之を五期に區割して編纂せる『英雄論』を以て始り、明治二十三年三月に執筆して、『女學雜誌』に掲載せる『愛都五十』

年の一文を以て終る。其間作る所の史論、人物評論、時事論議、隨筆、紀行等其重なるものは殆ど網羅せざるなく、通編二百有餘卷、或は史眼炬の如きあり、或は天真小兒に似たるあり、長編短章、各々其體を異にすとも、雖も、悉く是れ故人が心血の結晶にして其生活の眞傳たり。洵に天才愛山の名を永遠に記念すべき、唯一無二の書といふを憚らず。請ふ一本を購ひ天才奮闘の痕を此裡に驗せんことを

發賣所 京城太平通一丁目 京城日報代理部

取次所

電話二一六番
電話二一六番
振替京城二一五四番

巖松堂京城庄

東京帝國大學
文科大學
文學博士
上田萬年
東京帝國大學
倫理教授
松井簡治
兩先生著

大岡寄住

大日本國語辭典
 皇進本
 行發卷三第 四
 第次込田背裝後

[illegible]

體は我が祖先の尊き精神に永く本書四卷に活くる事

鋼材

神戶製鐵所

製品

ペイント、油類、一級
 コークス、セメント、
 耐火煉瓦、ワルタル、
 スコップ、シヤブ、
 帶車、ロープ、
 機械、工具、
 日用品、
 其他

混板平板
 針金洋釘
 新田營管總代理店
 東京
 大正七年一月

<p>我國革命之實相 八〇</p> <p>蘇俄革命之實相 八〇</p> <p>南洋新占領地 一七〇</p> <p>最近中國英語問題詳解 八五</p> <p>最近中國英語問題詳解 八五</p> <p>最近中國英語問題詳解 八五</p>	<p>最新刊</p>
--	------------

外國地理	六〇・中六五下九〇
明治大正名系文	六五
大正七十七年最新東京學堂	八五
青島概説	一〇
世界史綱要	一五〇
岩士達	三〇
新日本書局	四〇

[illegible]

大 阪 府 堺 市
 鹽 道 發 賣 元 肥 家 源 次 郎
 大 阪 府 新 店

清 良 醇

酒

京阪本町一丁目 電話長二九番
特約販賣店 佐藤牧太郎

恩賜
昭和
二年
金立
狀
日
主
更
同



新開業
京城本町一ノ四九地所
三ノ入口大成社出張所

露軍隊の亂脈

自由の爲めの革命が 志氣の頹落を招いた

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

全露に漲る平和熱

ケ氏の努力も水泡に歸す

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

名ある將官は皆殺された

多量の死傷が絶體權を有つ

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談



露西亞婦人兵の指揮官と副官

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

窮民を装ふ不逞者

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

生活難

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

露國軍政官 荒木貞雄中佐談

新調和號

新調和號の廣告文...

東京日日新聞社代理部の廣告文...

Bottom section containing various small advertisements and notices, including mentions of '東京日日新聞' and other local businesses.

